

TOKAS-Emerging 2024

142組の中から選ばれた、6名の新進アーティストによる展覧会をTOKAS本郷で開催

「TOKAS-Emerging」は、トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) が2001年より行っている若手アーティストの活動支援プログラムです。日本国内を拠点とする35歳以下のアーティストを対象に公募を行い、個展開催の機会を提供しています。

2023年6月から7月にかけて実施した「TOKAS-Emerging 2024」の公募では、全国から142組の応募があり、審査を経て6名を選出しました。絵画や写真、版画、映像、インスタレーションなど、さまざまな表現に取り組む新進アーティストの個展を2024年4月から6月まで2会期にわたり開催します。

また、各会期初日には本年度の審査員である森啓輔氏と副田一穂氏をゲストに招き、出展アーティストとのトークイベントを予定しています。

■ 展覧会概要

展覧会名： TOKAS-Emerging 2024

会期 | 出展作家： 第1期 2024年4月6日 (土) ~ 5月5日 (日) | 高見知沙 中村直人 奥野智萌
第2期 2024年5月18日 (土) ~ 6月16日 (日) | 平松可南子 菊谷達史 戸田沙也加

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間： 11:00-19:00 (最終入場は30分前まで)

休館日： 月曜日 (4/29は開館)、4/30

入場料： 無料

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp/

■ 関連イベント

アーティスト・トーク

第1期 2024年4月6日 (土) 16:30-18:00 | ゲスト： 森 啓輔 (千葉市美術館 学芸員)

第2期 2024年5月18日 (土) 16:30-18:00 | ゲスト： 副田一穂 (愛知県美術館 主任学芸員)

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館) 広報担当：舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ **参加作家／広報用画像** ※この他にも広報用画像をご用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

第1期 2024年4月6日（土）～5月5日（日）

高見知沙 TAKAMI Chisa
「°C | 23度のリング」

ひとつの意味に回収できない、折り合いのつかない状況がもたらす、危うさや脆さ、葛藤、不安定さなど、そこにある距離間について制作している。

本展では「両義性」、「間（ま）」、「媒介するものの存在」をテーマに、映像やパフォーマンスなど4作品によって構成する。変わりゆくものを表象する緑と紫2色のパフォーマンスが、言葉よりも先に存在する感情や感触の表現を試みる。

■プロフィール

1996年生まれ。2023年武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻映像・写真コース修了。

主な展覧会に「ささやかな膜」(KOGANEI ART SPOT シャトー2F、東京、2022)、「再来一山谷の小さい芸術祭」(東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト、泪橋ホール、東京、2021)など。



1. 《il》2023
映像インスタレーション、パフォーマンス



2. 《NOON GOOD (good afternoon)》2021
映像インスタレーション

中村直人 NAKAMURA Naoto
「Fernweh Trupp (フェルンヴェー・トルップ)」

中村は、集合住宅を舞台とした小説を執筆し、その物語を実空間へと立ち上げた作品を制作している。

本展では、集合住宅や部屋の断片を題材に、映像、音、家具を組み合わせたインスタレーションを発表する。「死」の恐怖と直面しながらも、どこか遠方へと憧れを抱く作品の登場人物たち (Fernweh Trupp) は、他者との関わりが減少した現実世界に通じている。作品を鑑賞する行為は公的領域と私的領域が入り混じり、鑑賞者自身も物語の一部に組み込まれている幻想を引き起こす。

■プロフィール

1996年生まれ。2019年金沢美術工芸大学美術工芸学部デザイン科視覚デザイン専攻卒業。

主な展覧会に「OUT OF THE FIREMAN」(SRR Project Space、東京、2023)、「Who Will Write the Structure?」(NOHGA HOTEL KIYOMIZU KYOTO、京都、2023)、「Essays for Life」(駒込倉庫、東京、2023)など。



3. 《窓II》2023
木、写真、布、アルミ



4. 《Expt. Your Friendly Neighborhood》2023
シングルチャンネルビデオ

奥野智萌 OKUNO Chiho

「新身訓練：I want to see my back.」

「モチーフのデフォルメ」と「通訳」をキーワードに、漫画をはじめとするさまざまなメディアを用いて、自身と異なる身体を持つものが見ている世界について創作活動を行う。それは、奥野が中学生の時に脊椎側弯症と診断され、自身の身体に異形性を感じてきたことに由来している。

本展では、360度の視野を持つというウサギが知覚する世界を描いた銅版画を中心に、映像や立体作品を発表する。身体を離脱可能な「からだ」とし、自身と異なる身体を思索する。

■プロフィール

1998年生まれ。2024年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了見込み。

主な展覧会に「NITO15 家にある宇宙」(アート/空家 二人、東京、2023)、「科学と芸術の丘 2023」(porta verde、千葉)など。主な編集・発行に『藝大小話』(2023)、『百年寝ようよ Vol.03』(2023)、『新身訓練』(2022)など。主な受賞歴に「第7回平成芸術賞」(2021)など。



5. 《新身訓練：I want to see my back.》2023
銅版画、ミクストメディア



6. 《練習問題》2023
ミクストメディア

第2期 2024年5月18日(土)～6月16日(日)

平松可南子 HIRAMATSU Kanako

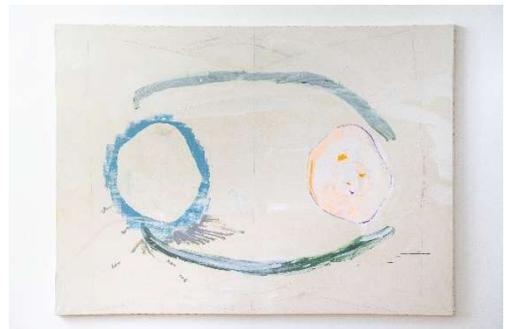
「砂を積む」

蟻の巣の周りがある砂山や水たまり、噴水など、繰り返し現れ、その度に変化するものをモチーフに、描くという一回性の行為を接続させながら、空間構成を含めた絵画表現を探究している。本展では、蟻が地下に広がる巣から砂を運び出す行動を、絵を描くことやそれらを並べる行為に重ねあわせ、絵に正対するだけでは見ることのできない多角的な視点を取り入れた空間づくりを試みる。

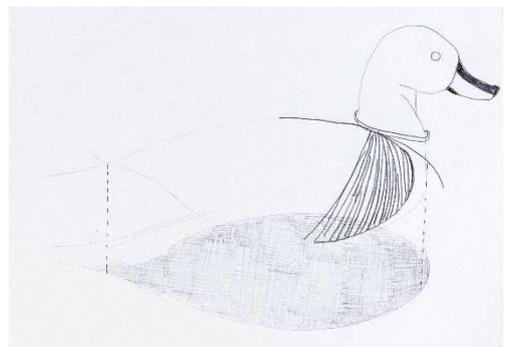
■プロフィール

1997年生まれ。2022年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究室修了。

主な展覧会に「イ反」(三菱一号館歴史資料室、東京、2023)、「少しずつちがう」(アークヒルズ、東京、2022)など。主な受賞歴に「アートアワードトーキョー丸の内 2022」三菱地所賞、「第25回グラフィック『1_WALL』展」ファイナリストなど。



7. 《ピートとリピート (ありととり)》2022
キャンバスにアクリル



8. 《鴨のデコイ》2023
紙に鉛筆

菊谷達史 KIKUYA Satoshi

「犬と FPS」

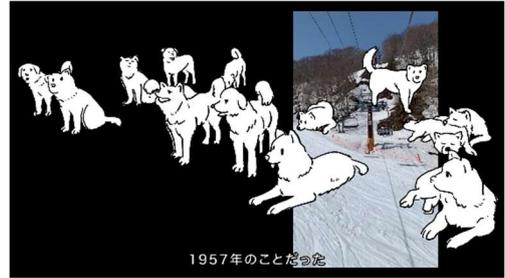
「描く」の定義を、絵筆で対象を捉えることから、カメラで対象を追うことにまで拡張させ、絵画と映像作品を並行して制作している。

本展では、現在リサーチしている「ある犬」を題材にしたドローイング・アニメーションを発表する。犬を追っているうちに路地裏に迷い込むと、そこには別の犬の姿が現れる。そうして数頭に増えたイメージを繋ぎ合わせ、この犬たちの物語を描く。

■プロフィール

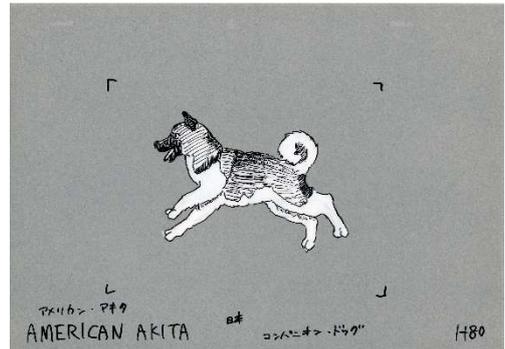
1989 年生まれ。2013 年金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科絵画専攻油画コース修了。

主な展覧会に「エッジアドベンチャー・ウィズ・ランニングドッグ」(JUNGLE GYM、東京、2023)、「スノーモンスター・ウィズ・ワーキングドッグ」(金沢市民芸術村、2023) など。主な受賞歴に「第 9 回新千歳空港国際アニメーション映画祭」北海道知事賞 (2022) など。



1957年のことだった

9. 《雪中索道随想録》2023
シングルチャンネル HD ビデオ



10. 《冬の兵 (スキーロス)》(部分) 2022
199 枚の OHP フィルム、インク、
油性マジック、ポスターカラー

戸田沙也加 TODA Sayaka

「消えゆくものたちの言葉なき声」

戸田は美しさと醜さを表裏一体と捉え、その醜美の世界観を主に女性や動植物の形をとおして絵画や写真で表現している。

本展では、テラコッタの裸婦像を生涯にわたり作り続けた物故作家のアトリエに残された裸婦像をテーマに、語られることのない姿を捉えた映像と写真作品を発表する。裸婦が美の象徴として崇拝されていた時代が終わりを迎え、解放された肉体として現存する女性達の言葉なき声に耳を傾ける。

■プロフィール

1988 年生まれ。2012 年女子美術大学大学院美術専攻洋画研究領域修了。主な展覧会に「生い茂る雑草の地に眠る」(KANA KAWANISHI GALLERY、東京、2023)、「The glitter of the shadow and color of the light」(GALLERY MERROW、東京、2023) など。主な受賞歴に「KYOBASHI ART WALL - ここから未来をはじめよう」入選 (2022)、「アートアワードトーキョー丸の内 2010」木幡和枝賞受賞など。



11. 《語られざる者の残響》2024
映像



12. 《この地に眠る #1》2023
写真

「TOKAS-Emerging 2024」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5 6

7 8 9 10 11 12 ウェブバナー(3月中頃納品)

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※基本情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp